本当にどっちでもいいの？

白河中央中学校　三年　緑川　心春

「どっちでもいい」「なんでもいい」

これがいつの間にか私の口癖になっていた。

どっちがいいと言われたら「どっちでもいい」

何がいいと言われたら「なんでもいい」と答えることが多かった。いつからこうなったのか自分でもよくわからない。自分はどっちがいいのか、何がいいのか考えるのに時間がかかってしまい、結局「どっちでもいい」「なんでもいい」と言ってしまう。

「どっちが可愛いかな？心春だったらどっちにする？」

「どっちでもいいかな。」

「でた。心春のどっちでもいい。どっちか選んでよ。優柔不断なんだから。」

またやってしまった。優柔不断と言われてしまった。この口癖のせいで……。

友人と買い物に行ったときよくこのような会話をする。そのたびに選ぶのが面倒なのか

と思われていないか不安になる。別に選ぶのが面倒というわけではない。決めるのに時間がかかってしまうだけ。いつも考えているうちにタイムリミットがきてしまうのでいつしかこの言葉に頼るようになり、自分の意見を出すことが苦手になってしまった。そして、自分の意見を否定されるのではと恐怖を感じるようになってしまった。

中学校三年生になり、進路について家族や先生と話すことが増えた。志望校や将来の夢は決まっていない。母にそのことを相談していた。ずっと黙って聞いてた母が口を開いた。

「将来は親や先生が決めるものではない。自分は高校で何を学びたいのか、高校を卒業したらどんなことをしたいのか、自分で調べて探してみないとわからないよ。大人の誰かが決めるんじゃない。自分で決めるんだよ。」

私はそれを聞いてはっとした。高校からは義務教育ではなくなるから、自分で行きたいと思う高校を選び、受験する。このまま自分

。

20 × 20

は「どっちでもいい」「なんでもいい」と言い続けてよいのだろうか。自分が将来、後悔することになるのではないのだろうか。そして、意見を言わず相手に合わせている自分のことを相手はどう思っているのか。

その日から私は、「どっちでもいい」「なんでもいい」をできるだけ使わないように意識して生活してみた。まず、自分の意見をしっかりもつために、よく考える。そして、自分の意見を伝える。始めは少し怖かったが、仲間はしっかりと自分の意見を聞いてくれた。仲の良い友人も、自分のペースで無理せずに声をかけてくれた。おかげで少し自分に自信がついた、そして友人との仲がもっと深まったような気がした。口癖を直すことで本当の自分を出すことができるように感じた。

改めて気づいたのは、私の本心は「どうでもいい」わけではなかったことだった。どんな選択が自分にとってよりよい結果をもたらすのか考えるのに時間がかかっていただけ。

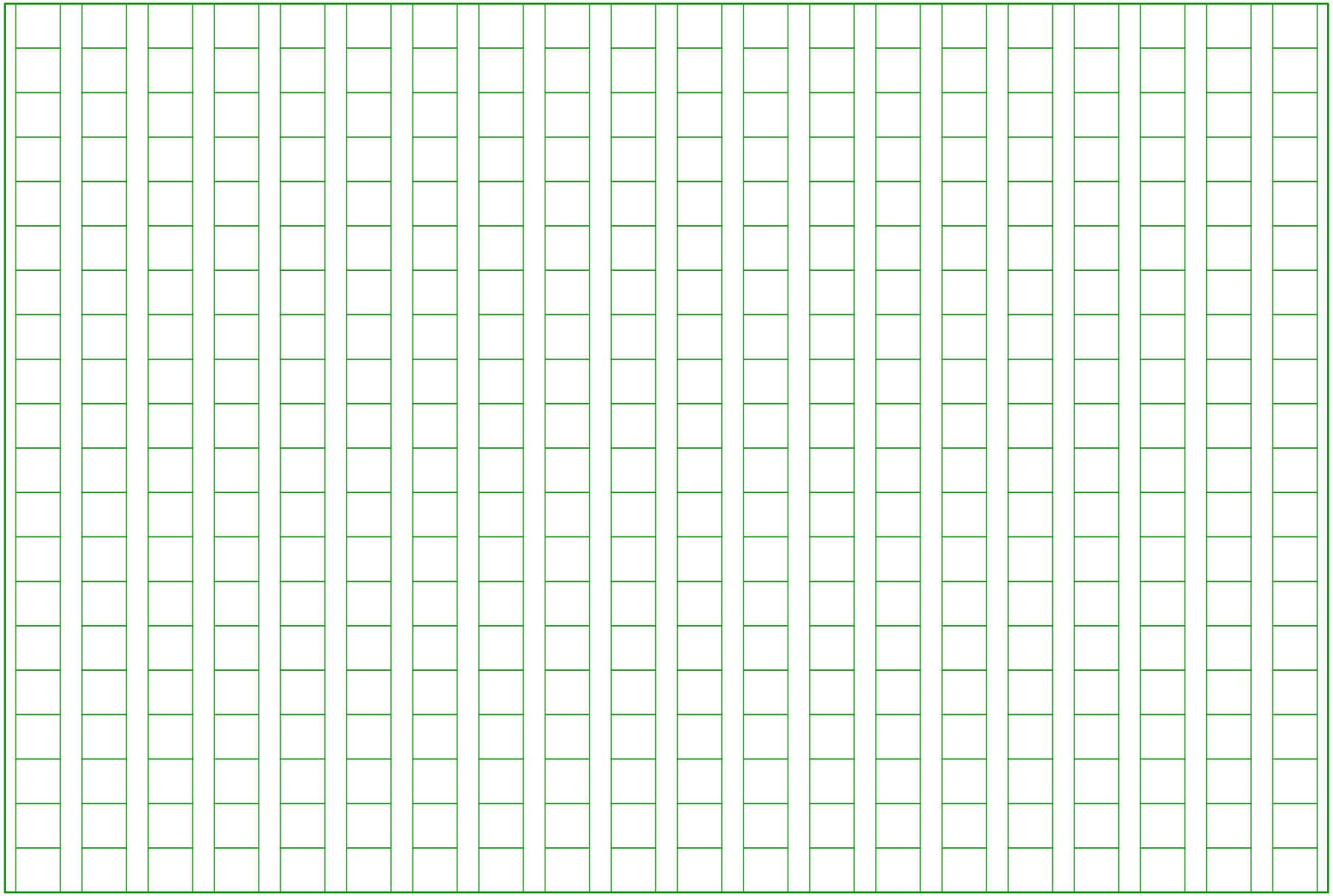
。

20 × 20

一〇〇％完璧な選択などありえないけれど、ちょっと力を抜いて、周りに甘えられるようになって、そんな中でもたった一％でも自分が多く望む方を選べるようになってきた。

今、私と同じように「どっちでもいい」と言ってしまう人はいないだろうか。そんな人は、自分より相手のことを考えてしまったり、嫌われたくない思いが優先してしまったりしているかもしれない。でも、自分の本心と向き合って、じっくり考えてほしい。本当は「どうでもいい」はずなどないのだから。

決めるのは自分。そのためにも私は正しい選択と決断ができるように、普段からさまざまなことに興味をもって、これからも自分の可能性を広げていきたい。



20×20